

手紙 電子メール, 黒板 プロジェクタ, 配布教材 WebCT

熊本大学総合情報基盤センター

喜多 敏博

熊本大学では 2004 年度から、全ての科目、全ての履修登録者が WebCT に登録され、全ての授業で WebCT を今すぐにでも利用できる体制が整っています。LMS (学習管理システム) の代表格である WebCT を使うと、授業にどのようなメリットがあるのか、全学 1 年次必修科目「情報基礎 A」「情報基礎 B」での活用の経験を踏まえ紹介します。

1 WebCT は、うえ、かんべんしてー

「こんなややこしいものを使わなくても授業はできるよ」とお思いの向きもおられるとは存じます。たしかに、初心者にとって WebCT はあまり分かり易く作られているとは言えません。(ただしその分、機能の豊富さでは他のシステムの追随を許さないです。)

熊大 1 年生ならだれでも受けないといけない「情報基礎 A」「情報基礎 B」では、授業のほとんどを WebCT を使ってやっています。

皆さんに、とりあえずとっつき易いところから始めるためのヒントを提供してみようと思います。

2 簡便な WebCT 活用法

表題の中で「配布教材 WebCT」と書きました。授業の教科書や配布資料を受講生に提供するのに WebCT は利用できます。ただし、教材を電子媒体化して提供するのは、さまざまなメリットも大きいですが、作成する教員にとっては負担が大きく、気の重い話です。

ここではあまり気負わずに、表題をとりあえず訂正して

「毎回の小テスト WebCT」

とし、WebCT の

オンラインテストの機能を一度、試してみてください

ということを提案したいと思います。

WebCT の「テスト」にはいくつかの形式があります。「選択形式」「整合形式」「計算形式」「短答形式」「記述形式」の 5 種類です。

次の図は、「選択形式」です。



このようなオンラインの小テストの利点は、自動採点が行われることです。テストを受験した方としても、自分の点数が即座に分かるので点数が悪い時は（複数回受験を許す設定になっていれば）もう一度やってみようという気になります。

「こんなアンケートみたいな簡単なもので、学生はちゃんとやるのか」と思われる方もいらっしゃると思いますが、問題の出題順番と選択肢の順番は、受験する毎にランダムにできるので、少なくとも「問1の答えは(c)、問2の答は(b)、…」の類の伝言ゲームは無意味です。

もちろん、高度な内容のテストはこのような「選択形式」では出題できませんが、「これだけは、最低分かっておいて欲しい」と思うことやその分野独特の「用語の定義」を周知徹底するには役立ちます。（「記述形式」で作れば高度な質問を問うことができますが、もちろん採点は教官が自分ですべてやらないといけません。）

簡単な（予習、復習用の）小テストを数問作って、「来週の授業の前日までに WebCT でやっておかないと減点」等の指導で、講義に対する学生の熱心さがかなり変わってくると思います。

3 こちら、認知率は 100% となります

全学必修科目「情報基礎」で WebCT を毎週使っているので、2006 年度には熊大生の WebCT 認知率は、100% になります。また、熊本大学で開講されている全科目について、SOSEKI で履修登録をした次の日には学生の WebCT の画面にその科目名が現れるようになっているので、教員にとっても学生にとっても、すぐに使いはじめることができます。「あれ、この科目はコンテンツなあんも入っとらん」と学生につぶやかれる日もそう遠くはないかもしれません。

WebCT の操作性があまり初心者向けでないのは多くの人を感じるどころですが、今回取り上げた、小テストの作成もちょっとコツが必要です。（「質問データベース」に問題を作成してから、「テスト」の作成をする必要がある、等。） <http://www.cc.kumamoto-u.ac.jp/> の「熊本大学版 WebCT 入門」も御参考にされ、やってみて分からないところがあれば、

webct@cc.kumamoto-u.ac.jp

でも質問を受け付けていますのでどうぞ。

こっちの水は意外と甘いですよ。